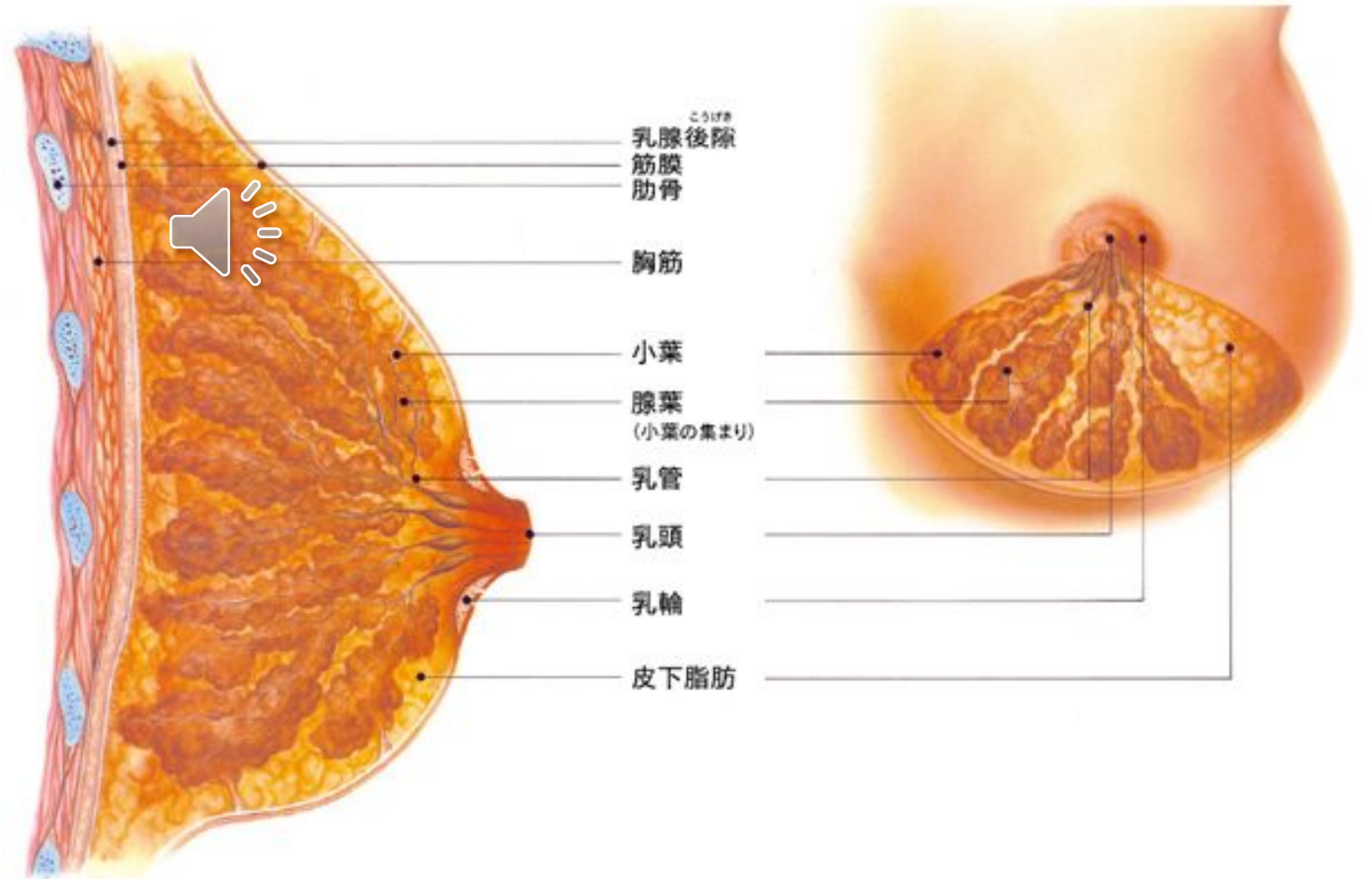
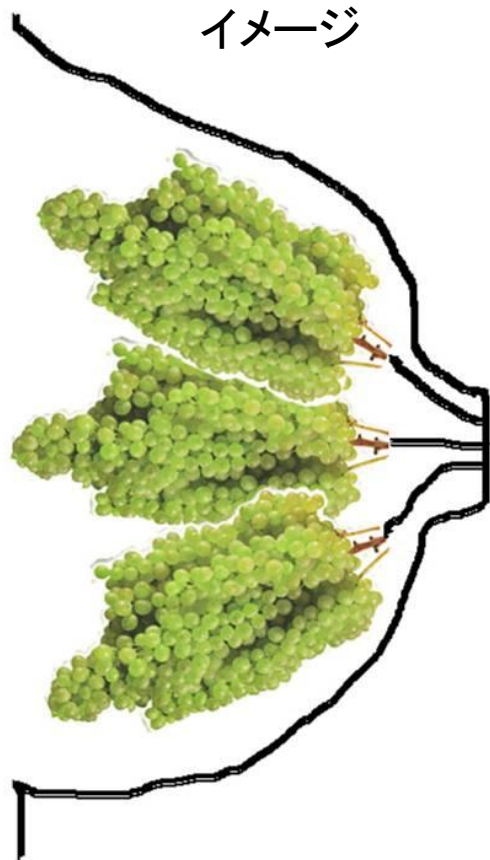


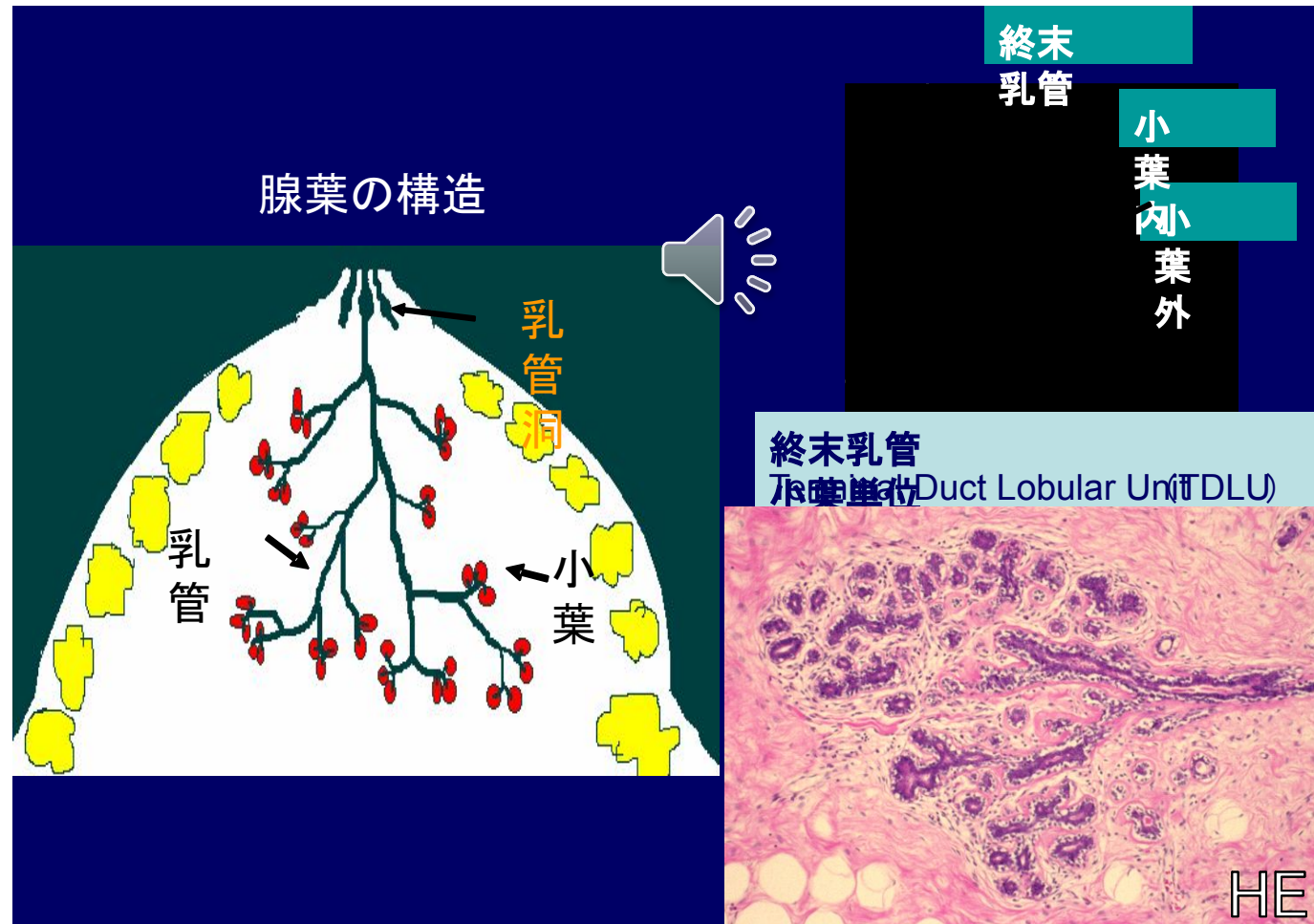
1. 乳房のしくみ

乳房は、母乳をつくる乳腺と、それを包む脂肪組織から成り立っており、乳腺は、軸を乳頭に差して脂肪の中に浮かんだぶどうのような構造をしています。1個1個のぶどうの粒がミルクを作る小葉で、それが集まったぶどうの房が乳腺腺葉です。乳房の中には15~20房のぶどう(腺葉)がはいっており、それぞれのぶどうの粒(小葉)で作られたミルクは乳管という茎を通して軸に集められ乳頭から分泌されます。



2. 乳がんの発生部位

乳管は、枝分かれを繰り返すたびに細くなり、最後は終末乳管となって小葉の中に入って終わります。この終末乳管と小葉とを合わせて終末乳管小葉単位 (TDLU) と言い、ほとんどの乳がんはここに発生します。多くは乳管の中に発生した乳がんが『乳管癌』、と言います。まれにミルクを作る細胞の集まりである小葉から発生する乳がんもあり『小葉癌』と言いますが、これがいま徐々に増えてきています。



3. 乳がんの発育進展

乳がんの細胞は、乳管というトンネルの壁を作っている細胞、乳管上皮細胞から発生し、トンネルの中で分裂し増えていきます。トンネルの中で一杯になった乳がん細胞がさらに増えるとトンネルの壁を破って外にとび出していきます。これを『浸潤する』と言います。血行性転移やリンパ節転移を起こす始まりになります。乳管の中に留まり浸潤していない乳癌のことを『非浸潤癌』あるいは『上皮内癌』、『乳管内癌』と言います。この状態で発見して切除することができればほぼ100%治すことができます。

